令和3年度 豊後大野市総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和3年6月28日(月) 午後3時00分開会 午後4時40分閉会

2 開催場所

豊後大野市役所(2階)中央公民館 視聴覚室

3 出席者

- 市長 川野 文敏
- 副市長 清水 豊
- 教育長 下田 博
- 教育委員(全員出席)
 - 1番委員 矢野 憲一(教育長職務代理者)
 - 2番委員 羽田野 光江
 - 3番委員 江嶋 真朋子
 - 4番委員 渡部 稔

4 事務局等の出席者

市長部局(3名出席)

総務企画統括理事	玉ノ井 浩司
総務課長	小野 律雄
総務課総務係長	矢野 慎一郎

教育委員会事務局(7名出席)

教育次長	堀 誉裕
学校教育課長	中城 美加
学校教育課参事兼給食調理場長	赤嶺 真一
学校教育課課長補佐兼教育総務係長	衛藤 幸司
社会教育課長兼図書館長	岡部 司
社会教育課参事兼資料館長	高野 弘之
社会教育課課長補佐兼スポーツ推進係長	石川 孝義

5 会議及び議事の概要

(司会)

矢野総務係長 資料の確認

小野総務課長 <開会あいさつ>

川野市長 <市長あいさつ>

～略～

新型コロナウイルスの感染対策の切り札であるワクチン接種を高齢者から進めている。非常にスピードが早く、1週間前に確認して議会答弁した際には、高齢者の方の60%が1回目の接種を終えたという状況であったが、あれから1週間経って現在70%となった。

希望されている方が80数%なのでもうすぐ1回目全部打ち終わる予定。

そして2回目の接種を終えた方が25%という状況であったが現在35%。

1週間で10%増えており、順調にワクチン接種が進んでいる状況。

先週末に12歳から64歳までの方の接種券を発送した。

これから年齢を区切って順番に優先順位を決めて打っていく予定。

希望される方にワクチン接種をきちんとやって安心できる社会環境を作っていくたい。感染対策を含めて教育委員のみなさまにも引き続きの御協力をお願いしたい。

そのような状況の中、1期目の任期を終えて4月18日、執行部の豊後大野市長選挙で無投票の再選を果たすことができた。これからもう1期4年間、気を引き締めてやっていきたい。

1期目についてはみなさまもご承知のとおり3本の政策の柱を立てており、そのうちの1本が「学校教育の充実」ということであり、下田教育長をはじめ、教育委員、職員の皆様方のご尽力をいただいてこの4年間で学校教育がかなり充実できた。

豊後大野市では連携型小中一貫教育、成果を踏まえて、一步進めた形で小中一貫教育校の設置ということで、皮切りに朝地小中学校を開校したという状況。

そして、現在6月議会の開会中ですが、千歳の小中一貫教育校、建物を作っていこうということで自主設計の予算を今議会に提案させていただいている。

これからも子供達の学びを支えていくために小中一貫教育校をさらに推進していこうと考えている。

一方で学校に通えない子ども達、不登校の子どもも増えており、その子ども達の居場所作りということで教育支援センターかじか、旧三重高校同窓会のみなさん方のご好意で「すずかけ寮」を改修して新たな学びの拠点ができる。

このほかにも奨学金の返還支援制度がスタートした。奨学金を借りて学んだ方々が就職して働いて奨学金の返還をするようになった時に豊後大野市に住んでいただければ、5年間で最大100万円の奨学金を補助しようというもの。安心して学ぶことができ、働

くことができる環境づくりの取組が始まっている。

ジオパーク学習やキャリア教育にも力を入れていただいている。

2期目に向けては新たに3本の柱を立てた。

1つが豊かな暮らしとしごとをつくる

2つ目が豊かな人を育む

3つ目が豊かな自然を未来に繋げる

3つの柱でこの学校教育の充実は2つ目の豊かな人を育むの中でさらに取組を進めていきたいので引続き教育委員の皆様方のご支援御協力を賜りたい。

本日は1年に1回の意見交換をする場となっている。事務局より議事録をとる旨の発言があったがざっくばらんな自由な意見を出していただきたい。

特に渡部委員は初めての会議となるので緊張なさらずに自分の思うことをどんどん発言していただきたい。

清水副市長

<副市長あいさつ>

5月7日から副市長を務めさせていただいている。

県では教育行政の経験はなかったがしっかりみなさま方の意見を聞いて、より良い豊後大野市づくりに寄与できたらと思っている。

下田教育長

<教育長あいさつ>

年に1回ということで市長の方からお話を受けたが、本当は何度も市長にご意見を言う機会を持てると良いと思いつつも、実はお話しなくとも、市長の方から教育に対し色々なご理解をしていただく中で、相談すればそのようにやったらどうでしょうかという声かけをいただいており教育委員会の中ではみなさんにご報告をさせていただいているところ。

教育委員会は常々、素人集団の集まりでありながら合議制で進めている通常で言うレイマン制度という言葉で表現しているが、教育委員4名、それぞれの立場で率直な意見をいただきながら市の教育行政の方向を定めるという機会にさせていただいている。市長には色々な意味でアドバイスを受けながらも教育委員会が独自で考えることについては積極的にやってくださいというご意見や指導もさせていただいている。

よって、教育行政について、市の進め方はあるが、教育委員会としては安心して、中立性、独立性を大事にしながらみなさんのご意見を伺って現在進めているところ。

とりわけ、先ほど紹介のあった方向の中で具体的なものをいくつか紹介しながら、また教育委員のみなさまの自由なご意見をお聞きしながら、普段、なかなか市長・副市長と意見を交わす機会が少ないので色々な角度からの意見を聴けるといいと考えている。

市長、副市長、そして教育委員の皆様、どうぞよろしく申し上げます。

(司会)

矢野総務係長

<自己紹介>

教育長職務代理 矢野憲一委員(4年目:三重町)、羽田野光江委員(3年目:犬飼町)、江嶋真朋子委員(2年目:大野町)、渡部稔委員(1年目:緒方町)、玉ノ井総務企画統括理事、小野総務課長、堀教育次長、中城学校教育課長、赤嶺学校給食調理場長、岡部社会教育課長兼図書館長、高野資料館長、石川社会教育課長補佐兼スポーツ推進係長、衛藤学校教育課長補佐兼教育総務係長、矢野総務係長

小野総務課長

<資料説明> ~豊後大野市教育大綱(案)について~

令和3年度に策定した第2次豊後大野市総合計画(後期基本計画)及び第4次豊後大野市総合教育計画との整合性を図りつつ、教育委員会との連携をさらに強化するべく課題共有を深め、その解決・改善を図るため見直しをおこなったところ。

大綱の趣旨について、教育大綱は、平成26年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図るため、教育行政に関する目標や施策の根本となる方針を「総合教育会議」において、市長が教育委員会と協議して定めるもの。

本市の教育大綱は、第4次豊後大野市総合教育計画との整合性を図りつつ、重点的に講ずべき施策について策定したところ。

今回の対象期間は令和3年度から令和4年度までの2年間としている。

基本目標については、第2次豊後大野市総合計画後期基本計画を総合的に推進するための3つの政策目標に準じて、教育行政においても施策を推進することとしている。

政策目標Ⅰ 豊かさをつなぐ協働によるまちづくり

政策目標Ⅱ 豊かな心と学ぶ意欲を育むまち

政策目標Ⅲ 豊かな自然を未来に残し伝えるまち

「政策目標Ⅰ 豊かさをつなぐ協働によるまちづくり」については、重点施策として「協働によるまちづくりの推進」、具体的には「市民の信頼と期待に応える開かれた教育行政の推進」としている。

「政策目標Ⅱ 豊かな心と学ぶ意欲を育むまち」については、重点施策として「地域とともに、学校教育と社会教育を充実する」ということで、具体的には7項目「キャリア教育の推進」「小中一貫教育校の設置」「ICT環境の充実」「不登校・いじめ対策の強化」「大分県立三重総合高等学校の支援」「スポーツツーリズムの充実」「部落差別解消を中心とした人権教育の推進」をあげている。

「政策目標Ⅲ 豊かな自然を未来に残し伝えるまち」については、重点施策として

「郷土学を推進する」ということで、具体的には4項目「郷土学の推進」「ジオパー

ク活動の推進」「地域の文化財・歴史・伝統文化・民俗芸能の保存・継承・活用」「歴史資料の調査・収集・公開の促進」をあげている。以上提案する。

矢野総務係長 教育大綱については、地方公共団体の長が、地方公共団体における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、地域の実情に応じてその目標や施策の根本となる方針を定めるものとなっている。今年度の大綱については総務課長の説明のとおりの内容で取り組んでいこうと考えている。
教育委員のみなさんの方からご意見があれば、ぜひいただきたい。

(意見なし)

(司会)

矢野総務係長 特にないようなので、以上の内容で策定に移らせていただく。

続いて、令和3年度教育行政の取組について、教育委員会より説明をさせていただきます。

<令和3年度教育行政の取組について>

中城学校教育課長 ～学校教育の取組について説明～

資料「小中一貫教育校を目指して」に基づいて説明する。

本市が進めている小中一貫教育校の取組については、これまで連携型小中一貫教育校という形で進めてきたものをさらに進めて連結型小中一貫教育校とするもの。

設置の目的については、地域に義務教育の9年間の学びの場を残していき、その地域の中でそれぞれの地域の特色を活かしながら継続的で系統的な9年間の教育を展開していく。そして、市の目標である主体的な自己実現ができる子供達を育成していきたいということが大きな目標。

次に、コミュニティスクール、学校運営協議会の組織について

本市は以前より、中学校校区でコミュニティスクールを設置していた。

今までは小学校中学校が連携型であったものをこれからは小学校中学校9年間を連結型小中一貫教育校とし、このコミュニティスクールの中でさらに学校と家庭と地域の連携を深めながらコミュニティスクールで子供達全体をみて、支えていただきながら子供達の学びを進めていこうと考えている。

小中一貫教育を進める上での重要なこととして、9年間という長いスパンを前期・中期・後期と分けてそれぞれの期毎に達成目標を定めながら最終的にそれぞれの一貫教育校における目的、教育の子供達の目指す姿を地域の方々と一緒に子供達の教育を施していこうと考えている。

前期・中期・後期の捉え方としては、4(1～4年生)・3(5・6・今の中1)・2(中2・3)制を考えている。

形態にも様々(A・B・C・D)あり、例えば、朝地小中・これから建設が始まっていく千

歳のように同じ敷地内で9年間の生活を送るという「A」という形態。

清川のように施設が隣接しており、それぞれの施設で中期の子供達が一緒に学校生活を送る「B」という形態等があり、形態に合わせて進めていこうと考えている。

次に段階についても、4段階ある。ステップⅠ・ステップⅡがこれまでの連結型小中一貫教育校にあたり、組織上で小中一貫教育校の準備が整うのがステップⅢ以降であり、ここからが小中一貫教育校にあたる。

次に各町の今後の移行スケジュールを示しているが、あくまで予定であり、今後少し変わってくることもあると考えており、それぞれの町毎に計画を立てて今後も進めていく予定。

教育委員会では、小中一貫教育校を目指している小中学校に令和3年度中に行うこと（資料参照）をお知らせしているが、それぞれ町によって状況が違うので、それぞれの町の状況を見極めながら、どういう風に進めていくかについて計画を立てながら進めていこうと考えている。

資料に、タイムスケジュールの例として三重町の場合を示している。これに準じたような形でスケジュールをそれぞれの町で立てて進めていくこととしている。

岡部社会教育課長 ～社会教育の取組について説明

資料「令和2年度豊後大野市スポーツ施設の整備等に関する基本構想【概要】」に基づき説明する。

構想の背景と目的として、現在、本市のスポーツ施設は市町村合併前の旧町村で整備された様々なスポーツ施設が各地に点在しており、大半の施設が建設から30年を経過している状況である。

一方で、特に三重総合グラウンド野球場及び陸上競技場は市内の他の施設に比べ利用率も高く、地域のスポーツ振興や市民の健康づくり、スポーツを通じたまちづくりの拠点としての役割を發揮しているという状況。

スポーツ施設としての位置付けは、県大会以上の大会やスポーツ合宿等のスポーツツーリズムに対応できる施設を総合スポーツ施設として位置付けるとともに小中学校体育館や社会体育施設など市民等の体力向上、健康づくりやスポーツ少年団等競技団体の競技力の向上に資する施設を地域スポーツ施設と位置付けた上で3つの基本コンセプトを掲げ、今後のスポーツ施設のあり方について方向性を示していくというもの。

（資料内容の説明）

2. 上位・関係計画（国の計画・市の計画）

3. スポーツ施設の現状及び見通し（スポーツ施設の利用状況及び維持・更新コスト、対象スポーツ施設周辺人口の現状及び見通し、学校施設の利用状況、宿泊の状況と対象施設周辺の宿泊容量）

このようなことを取りまとめて、3つのコンセプトを掲げている。

まず、1つ目の「『総合スポーツ施設』の整備に関する基本コンセプト」では、

総合スポーツ施設は駅など公共施設、交通機関の利便性や飲食、宿泊等のポテンシャル

ルが高くスポーツツーリズムの推進に適したエリアである三重総合グラウンド周辺及び関連施設を対象とするものとしている。

総合スポーツ施設の機能強化に関する整備に関しては、旧農林水産研究指導センター三重宿舎跡地を有効に活用し、現有施設で不足している機能として、雨天時でも練習や競技ができる全天候型体育施設を新たに整備するもの。併せて、倉庫やトイレ、必要な駐車場を併設していく。

新設する全天候型体育施設は、工期、整備費、維持管理費等を考慮した構造を採用することとし、多様な室内練習、例えば雨天時の野球やソフトボールの投球・ノック練習、フットサルの試合、サッカーの練習、陸上競技の練習等に対応できる規模及び人工芝の付設等を検討するものとしている。

さらに老朽化した三重体育館及び三重柔道場を総合スポーツ施設に移転集約し、大原総合体育館と連携した九州・全国大会規模の武道競技等の開催を可能とする武道館を周辺施設の用地の取得により整備するものとし、移転集約する新たな武道館は武道競技だけでなく多様な競技に対応できる構造として計画していく。

併せて、総合スポーツ施設の周辺には、ランニング、ウォーキングコース、遊具など市民が気軽に安心して利用できる環境を整備するよう計画し、市民のスポーツ振興に係る整備充実を図っていくものとしている。

2つ目の『『スポーツツーリズム』の推進に関する基本コンセプト』についてですが、スポーツツーリズムを推進する目的としては、人口減少や過疎化が問題となっている中、スポーツ振興が果たす役割は健康増進や体力の向上のみならず地域経済の活性化や観光の振興に寄与するものとして期待が高まっているところ。

また、スポーツ施設の融合として目指すべき方向としては、スポーツを通じて地域の魅力を来訪者に伝え、地域の多種多様な観光資源を健全化させ、観光の活性化に寄与するものとしている。

このことから、スポーツツーリズムを軸とした地域活性化を検討するため、大会の開催や合宿誘致のための条件の課題等について市民や各競技団体等にアンケート調査を実施するとともに、来訪したい魅力ある環境に整備するために、合宿利用者等にスポーツニーズの調査などを行い、行政のみならず市民、スポーツ関連団体、観光関連団体、企業、市民ボランティア団体などと幅広く連携をしていく推進組織の設置を目指すものとしている。

3つ目の『『地域スポーツ施設』の整備に関する基本コンセプト』についてですが、人口減少や少子高齢化が進む中、今後見込まれる人口減少に伴う財政規模の縮小や老朽化する公共施設の維持・更新等に関する費用の増加等を鑑みると全ての施設を建替えていくことは困難な状況と考えている。

このため、今後の地域スポーツ施設のあり方については、生涯スポーツの推進と市民の健康づくりの重要な役割を担う部分であることから、市民や利用団体等から意見を聴取し、地域の種目別競技団体、スポーツ少年団、地域利用者の多様な利用形態、ニーズの変化に対応できる施設の配置や地域の最も身近なスポーツ施設である学校体育施設

の屋内運動場、グラウンド等を地域に開放して有効な活用を併せて調査していくものとしている。

この調査結果や施設の利用状況を踏まえて、市行財政改革指針に示したとおり、老朽した施設の統廃合を含めた配置と管理運営を念頭に施設の整備方針について、令和3年度以降に策定するスポーツ施設の整備に関する基本計画で具体的に示していくようにしている。

今後のスケジュールについてですが、スポーツ施設の整備に関する基本計画の策定期間と全天候型スポーツ施設の実施設計、三重総合グラウンド周辺の実施設計の期間が同時並行となっている。

これは、地域経済が新型コロナ禍において、大きな打撃を受けている中、速やかなスポーツツーリズムの実施に向けて体制を整備していくことにより、コロナ禍が収束した後、速やかな経済復興に寄与できるものと考え、総合スポーツ施設の全天候型体育施設、三重総合グラウンド周辺、武道場の整備を先行しながらやっていくというもの。

このような形で基本構想を策定しているが、もう一点、資料にはないが今、申し上げた基本構想で総合スポーツ施設周辺に年齢・性別・障がいの有無に関わらず、体力の向上を図るために、ランニングコース、ウォーキングコース、遊具などの環境整備をおこなうことを盛り込んでいる。

このことから、令和3年4月に豊後大野市大原大型複合遊具の整備に関する基本方針を策定し、教育委員にお示しさせていただいている。

新型コロナウイルスの感染拡大により子供達は様々な活動が制限され、おうち時間が増え、外に出る機会が少なくなったことにより、運動不足や体力の低下が懸念されていることから、大原総合公園に大型複合遊具等を整備することで、身体的機能の向上を図る場を確保するとともに、コロナ後の子育て世代の交流の場の創出をしていく。

遊具の整備については上限額を1億円として、本日、この遊具設置に関する公募型のプロポーザル審査会を実施し、3者の提案者の中からテーマ、コンセプト、遊具の機能性、安全に対する配慮、維持管理、景観への配慮、デザイン等について審査をし、最優秀提案者を優先交渉権者として、第2位の提案者を次の交渉権者に選定をした。

このようなことから、今後、遊具の整備についても進めていくこととしている。

(司会)

矢野総務係長

学校教育課及び社会教育課から令和3年度教育行政の取組について、説明をさせていただきました。ご質問、ご意見等があるかと思うが、この後の意見交換の方で含めて、お願いしたい。

これからの意見交換については、小野総務課長が進行する。

<教育行政に関する意見交換>

小野総務課長

昨年度、フリートーク形式でおこない、大変活発な意見交換ができたと聞いている。今年度も同様の形式で行いたい。

※意見交換については、発言の意図が変わらないよう一部口語のまま記述とする。

羽田野委員

地域の活性化とスポーツ施設について

各町に支所・公民館を新しくしていただいた。

私は犬飼町出身なので犬飼町のことを中心に申し上げることになるがよろしくお願ひしたい。

町民がから立派な公民館ができたと言われている。

今までは2階建てだったものが1階建てになり、みなさんの顔が見えるようになり、たいへん素晴らしいと思っている。

先日の教育委員会で総合スポーツ施設ということで三重町の駅の上にたいへん立派な施設を作られるという話を伺った。

そのような中で、犬飼の体育館、グラウンドを利用される方々から、「公民館はできたが体育館はどうなるのか？」というような話を聞いた。

資料を見ると昭和55年にできた犬飼体育館はほとんど修理をせずにそのままになっている状況である。

それでも、総合評価を見ると「B」となっている。他のところを見ると犬飼よりも悪く「C」だったり「D」のところもある。

だが、果たして犬飼の「B」は妥当なのか？と感じている。雨が降ると雨漏りがするので体育館の真ん中に大きなたらいを置いており、雨漏りのための対策をしている。

壁からもじゃんじゃん雨水が漏ってきて、台風の時期はたいへん困っている。

90歳を超えられた方も卓球等で体育館を利用しているが、雨が降ると前述のとおり雨対策をしながら利用している状況である。

三重に素晴らしいスポーツ施設ができるとのことだが、確かに三重町は人口も増えてきているので理解できるが、一方で地域周辺は減少しており、体育館を使用する方もすくないのだが、犬飼町は大分市に近いこともあり、(市外からは)かなりの人数が利用していただいている。

佐伯の方からもこられるということから総合評価で「B」となったのだと思われる。

施設を新しくしてもらいたいとは言わないが雨漏りなどを気にせずに利用できるようになれば、もっとたくさんの方に利用してもらえるのではないかとと思っている。

朝地体育館、大野公民館の体育館を見ると「D」という総合評価を受けており、これを見てビックリしたのだが、こういうものもどうにかならないのか？

犬飼体育館の雨漏りは傾斜のある屋根を作っただけであれば改善できるのではと思っているが、何年もその課題がそのままになっている。

自分の経験では、雨漏りをした床は盛り上がってくる。それを直すのに随分と費用がかかったと記憶している。

体育館の建築年数を見るとどこもそう変わらないようだが、地域の方々が安心して利用できるような施設にしていきたい。

健康づくりも教育委員会の所轄となっている。

利用者のことを第一に考えると、施設整備はたいへん重要なことだと考えている。

犬飼町のことだけをあげて申し訳ないが、少しずつ整備をしていただけないとこのまま朽ちてしまうのではないかと危惧している。

総合スポーツ施設の建設については市外からの利用者にも魅力を持って通っていただきたいと思うが地域の方々、豊後大野市の住民も十分に活用できる施設も残してもらいたい。

先ほどの教育委員会の中でも話題になったが、合併前の町村にあった施設を全部残すのではなく、人口も減少しているので千歳と犬飼にひとつというような施設の集約等も考えていく時期にきたのではないかとと思っているが、住民の方々が安心してスポーツに従事できるような施設（環境）をぜひ考えてもらいたいですが市長の考えはいかがか。

小野総務課長 フリートークというカタチなので、どなたか委員から他にもご意見がございませんでしょうか

渡部委員 緒方町は緒方工業の体育館が壊されて、今小学校、中学校しかない。小学校の体育館も使わせてもらえない。部活動では中学校の体育館を少し利用しているだけあとは旧米山中学校の体育館に行っている。不便なのはそこも雨漏りがしており、修繕のための費用がでないかと施設長が言っている。少年野球や中学校の野球のことだが、緒方には立派なやまびこ球場がある。三重や千歳の野球場だが老朽化が激しくスコアボードも使えない。時計も壊れている。その中であっても、緒方では絶対しないのは遠いからと聞いている。もう少し今ある施設（やまびこ球場）を使ってもらいたいと考えている。

小野総務課長 その他にありますか？

川野市長 江嶋委員いかがですか？

江嶋委員 みなさんが施設のこと（ハード面）を言われているが自分はソフト面の充実をしていただきたいと考えている。
1点目は、トップアスリートやプロと触れ合う機会の提供をお願いしたい。子供達が中学校の時にプロの振付師がきてダンスの指導をしてくれた。プロの指導を受けるという特別感があって、初めて子供達は自分の眼で本物に触れることができ、ダンスを体験したことにより興味も深まり、全体的に運動に対するムードが高まったように保護者から見て感じられた。さらに子供達の積極性とか挑戦とか意欲までも引き出してくれたように感じた。普段触れる機会の少ないトップアスリートとかと触れ合う機会の提供を各町に順番に派遣のような形で取り組んでももらいたい。
2点目は、地域の文化特性を活かした育成強化について

例えばですが、現在、犬飼がテニスが強いのでテニスを頑張りたい人は犬飼に行ってもらったり、卓球であれば朝地にという風に1つの町に資格を持った専門の指導者がいて、そこで競技力強化を目指す子達が集まるというような形を作っていただいて、指導者の育成をしていただきたいと思います。

地域を代表して国内外で活躍するスポーツ競技者に対応できる優秀な指導者の発掘や確保をお願いしたい。

市内だけでは指導者の確保が難しいと思うので、例えば農業の方では市の定住支援策（UI ターン）で担い手の確保をされているので、スポーツの分野でも同じようにできればいいと考えている。

また、子供達にとっては他の町に出るということは、外の世界を知ることになり、市民においては各町の地域間の交流もできるのではないかと思いますので、ぜひ、内容面での充実をお願いしたい。

川野市長 矢野委員はいいですか？

矢野委員 はい

川野市長 ハード、ソフト、スポーツ施設、地域の活性化のためにということでご意見をいただきましたが、まず、ハード面の整備についてですが、私が平成28年に社会教育課長をしていた時に犬飼体育館が雨漏りしていたので少し手を入れて雨漏り対策をしたが、改善されていなかったようですので、長寿命化を検討していかないといけないということだと考えている。

先ほど、岡部課長から説明させていただいたスポーツ施設の整備に関する基本構想の中で羽田野委員がおっしゃるように大原総合運動公園の周辺にはスポーツを通じた交流を図っていくため、経済の活性化も含めてやっていくための施設整備をやっていこうということでタイムスケジュールを示している。

羽田野委員のおっしゃる地域スポーツ施設については、その町の住民のみなさんが利用している施設については、適正配置の協議を重ねて、利用団体の説明を行い基本設計から実施設計を進めていくこととなっており、施設がどれだけ必要なかというところを含めて社会教育課の中で検討していこうということで令和6年度までには長寿命化の施設整備を終わらせることとなっているので、犬飼の体育館に雨漏りの課題があるということで長寿命化を図っていくという方針になれば、工事費を計上して整備が進んでいくのだろうと考えている。

また、渡部委員のおっしゃった緒方の体育館がないという件につきましては、これまでも、緒方は体育館という特別なものを持たずに運営してきた経過があるが、これからどうしていくのかということも含めて地域スポーツ施設の中で協議がされていくのだと考えている。

人口が減っているので各町にそれぞれ1つずつ要るのか？それとも羽田野委員のおっ

しゃるように2つの町に1つでいいのではないか？という方向になるのかとことも等を併せて検討が進められていくことになると考えている。

公式野球はやはり、やまびこ球場ですよね。あそこが一番で芝生でやるのが理想と思っているので、合宿誘致もそこを中心にやっ払いこうと考えている。

雨天の時には全天候型を使っ払いいただき、晴天時にはやまびこ球場を使っ払いいただくというのが基本的な誘致のしくみになると考えている。

豊後大野市にある施設をフルに活用してスポーツツーリズムを推進していきたくと考えている。

また、江嶋委員からのご意見でソフト面の充実ということで指導者を育成していくということについてですが、「中学校の部活動の外部指導者を」ということで今回の議会の中でも話しがあった。

朝地の方でスポーツクラブの指導者を朝地中学校の指導にあたっ払いもらうという関係を作っ払いいこうということだったが、スポーツクラブがあるのが三重と緒方と朝地しかないなので、他のところをどうするのかという課題がある。

以前、緒方中学校にバレーの強い選手を集めたことがあったがそういうことがこれからもあるのかどうか？あの時は確かベスト8までいったのでは？

下田教育長 そうでした。

川野市長 前述のようなやり方で九州大会に行ったという経緯もあるので、これからの指導者育成を含めて教育委員会でお考え、それから、先ほどのハードの整備について社会教育課のこれからの考え方を助言していただきたい。

岡部社会教育課長 社会教育課としては、スケジュールどおりに進めていく方針であるが、スポーツツーリズムの誘致をするための施設整備として大原周辺に全天候型体育施設であるとか武道館の整備等を行っ払いいくということ。

併せて2ヵ年、令和3年度・令和4年度にかけて、スポーツ施設の整備に関する基本計画を策定して、各施設のあり方について検討し、施設整備が必要な部分、長寿命化が必要な部分または、統廃合が必要なところの整備をしていく。

例えば、犬飼の体育館であれば、利用者がどのくらいあるのか？犬飼中学校、小学校の体育館をどれくらいの方が利用されているのか？そういったところの整理をしながら今後の体育館のあり方をこの2ヵ年で検討し、整備が必要であれば長寿命化の整備をしていく、といった形でこの2ヵ年で具体化をしていきたくと考えている。

羽田野委員 犬飼の公民館を建替える前に、市長が犬飼に来られて町民の意見をお伺いされた時に、「将来の子供のためにあまり借金を残したくない」と言われたのが素晴らしいことをおっ払いしゃるなど耳に残っていたが、その後、公民館が建て替えとなり、だいぶ町民の意見が通ったのだらうと残念に思った。

建て直して欲しいということではなく、今、使っている施設を使っている人達のために少しでも良くしてもらいたいというのが本音。

建て直したり、立派にして欲しいというのではなく、雨漏りを心配しなくてもいいように使えるような施設になればいいと思っている。

川野市長

支所・公民館の整備の時に各町を回ってお話をうかがった時にとってもたくさんのご要望をいただいた。

なかなかそのご要望を全部反映するような施設はとてもしません、でも機能的にはしっかりとこれから50年先はその地域をしっかりと守っていくものを作ります。

華美な派手なものを作るとなると子供達にたいへんな借金を残すことになるので、機能的を充実していきたいのでご理解をいただきたいとご挨拶させてもらったと記憶している。

そのような中、犬飼体育館につきましては、機能だけはしっかりと残してもらいたいという要望ですので、そこは、構想、計画をつくる段階でどの施設を残していった、どこに集中的に予算をかけて修理していくのかという計画していくので、羽田野委員の意見も参考にさせていただきたい。

また、緒方の方の施設整備としては、小中一貫教育校になれば、小学校、中学校と別々に施設（例：プール）は必要なくなり、1つで大丈夫だと教育長にお聞きしたことがあるが体育館もそういう風に地元の方々が使うというようなやり方ができるのか？

中城学校教育課長 体育館も実際、いま、朝地小中学校が1つの体育館で小学生と中学生が一緒に使っており、地域の方も夜に利用されている。

これから先、小中一貫教育校が進んで体育館が1つになったとしてもそういう使い方は十分にできると思っている。

先ほどのソフト面のことだが単発的なものと長期的なものがあると考えている。

単発的なものとしては、江嶋委員からお話のあったように色々な事業があり、トップアスリートと呼べる事業もあるのでそういうものを学校がぜひ活用していくのはどうかかなと思っている。

先ほど話のあったプロの振付師の方が来た時、私もちょうど学校にいたが本当に子供達がノリノリで汗をいっぱいかいて楽しそうにしていた。

保護者が、今の子供達は恥ずかしいとかはないんだなと言われながら様子を見られていた。

子供達が本物（プロ）の方から受ける影響というのはとても大きく、とてもいい体験の場になったと思っている。そういう短期の事業で使えるものはどんどん使っていきたいと思っている。

長期的な面では先ほど言った部活動の指導者の件ですが、いま市内の外部指導者として30人弱のみなさんからお手伝いいただいている。

ただ、それをもう一段階進めたのが今、朝地がやっているフレンドクラブの指導者も

っと学校の部活動と連携をとって今ある外部指導者よりもさらにもう一步進んだ指導をしていこうということを今年からやっとなり組み始めたところ。
それについては、今後、朝地が今やっていることを検証しながら今後市全体にどういうことができるのかということを検討していきたいと思っている。

矢野委員

地域の社会の交流ということ考えた場合、以前は三重町だったら体育の日に体育大会を盛大にやっていた時代もあったが今はどこの地域もほとんどやっていない状態だと思う。
地域の皆さんがこの日、1日だけはみんなで何かをやろうよという、そんな難しいことではなくてゲートボールでもいいし、グランドゴルフでもいいし、玉入れでもいいし、地域の方が集まってやれるような感じの事ができればいいなと思う。
よくテレビでお盆のこの日は地域にみんなが戻ってきて1日やるというようなことが羨ましいと思うがそういうことが地域ごとにできたらいいなと思う

川野市長

昔はそのような取組があったが、今は朝地くらい？朝地が最後までやっていたと思う。他の町も体育祭を地域ごとにやっていたがなくなった。
私も体育祭の地区の役員をしたことがある。
何故なくなったかという行事自体が区役になっていたからだと思う。
割当てられた協議の時間だけ参加して、自分の番が終わったら帰るという状況で、なかなかみなさんで集まって楽しくお祭りのような形で体育祭をすることができなくなっていた。
それよりは各自の嗜好にあわせてそれぞれが望むスポーツにみなさんが取り組んでいるので体育祭がなくなったのかなと思っている。
現在、大原の総合体育館では体重測定をやるということで1日を決めてどなたでも参加できるというようなことをやっている。
無料で参加できて個人の体力を測れるようなイベントもやっている。
今はコロナでできないが、そういう事情があつてどこも地域もスポーツ推進協議会は（それぞれの町に）あるので国の補助メニューとかを有効活用していただきたい。

矢野委員

市長、2期目当選おめでとうございます。
新たな施策をたてられたということで「豊かなくらしとしごとを創る」「豊かなひとを育む」「豊かな自然・地域を未来へつなげる」
どれも素晴らしい施策だと思うので、しっかり頑張ってください。
「豊かなひとを育む」ということに関連することになるが学校の無料化ということについて提案をさせていただきたい。
この問題については財政負担、政策の優先順位など、論点が多い問題で誰も手をつけたくないものだと認識しているが、給食費については生活保護や就学支援の援助があるので生活困窮者はそれを使えばいいのではないかと、あらゆる家庭の分まで無料化する

必要はないのではないかという考え方も確かにある。

妻が薬剤師という立場にあるため、話題になったフッ化物洗口のこととか 禁煙のこととか食教と健康に関する話題が毎日でてくる。

その中でも特に子供達が誰もが平等に食べられる給食について、丈夫な身体に育っていただくこと、それに投資することが一番大切ではないかという意見にいつもなる。

これから私達大人は豊後大野市の子供達に何十年も何らかのカタチでお世話になっていかななくてはならないということなので、丈夫な身体を持った人間ができることが長い目で見ると一番、豊後大野市のためになるのではないかと考えている。

確かに年間1億を超える金額を賄うというのは大変だと思うがみんなの知恵を出してやっていけばできないことはないのではないか、例えば使い方を給食費に限定したクラウドファンディングで共感した人達からお金を集めてもらう、その中で豊後大野市は、ジオ学習をやっている、キャリア教育をやっているのだということを伝えていけば共感してくれる人が何人かはいるのではないかと思う。

それで集まったお金を給食費の一部にまわして、子供たちにも給食費の一部はこういった形でできているということをお教える。租税教室の一つになると思うし、給食は大切に食べないといけないという指導をすると食育にもなるし、良いのではないか、そういうやりかたもできるのではないかと思う。

川野市長も現職の時は給食場長もされていたし、一番給食のことについては詳しいのではないかと思うので、あえてそういう問題について提案をさせていただいた。

川野市長

コロナ禍で昨年の4月から1学期の間は給食費を無償にさせてもらった。

これは、学校を開いたり閉じたりしないといけない状況下で保護者のみなさんに1ヶ月分の給食費を請求するのって理解を得られるのかという理由と経済的にもコロナで大変な思いをされている時なので・・・そして国の方からも感染症対応臨時交付金、幅広く使ってくださいといわれ、それを財源に充てて1学期分の給食費を無償化したという経緯がある。

しかし、制度として給食費無償にするのかということと慎重にならざるを得ない。

大分県内の自治体に1つ無償化しているところもあるがすごく大変な思いをしていると聞いている。

学校教育的に言うと、私が昔、場長だったので申し上げますと・・・

給食費は材料代だけで、それを調理する職員の給料、食器、電気代等は全て公費で賄っている状況。

食べることなので材料だけは保護者負担してくださいというのが教育の法令の中にも位置付けられているので、それに基づいて材料代だけ負担をお願いしている。

その材料費も随分と安い金額で設定しているので、そこはご理解いただきたい。

現在、給食費は年間1億です。

先ほどおっしゃった体育館の屋根の補修は臨時的経費単発で単年度で解決するが、給食費は経常経費になるので経常収支比率という数値を大いに引き上げてしまうことに

なる。

これから本市は経常収支比率がどんどん悪くなっていて、それが 100 に近づくほど財政の硬直化が進むのでやりたいという事業ができなくなる。

やらなければいけないことだけで手一杯という状態になる。

そうすると豊後大野市が目指すまちづくりというものができなくなる。なかなか手が出せなくなるので私達は経常経費の財源を使ってこれをやってみようということであれば 3 年間やってみて、ある程度事業結果が出たらそれはスクラップアンドビルドで取壊して新しい施策を展開するというやり方をとる必要がある。

財源を使ってその事業を運営している状況なので、給食費に 1 回 1 億を充ててしまうともう 1 年だけでは済まなくなり、将来に渡って負担をし続けていかないといけないので、ここは私も「はい、わかりました。やりましょう」とはなかなか決断できないところではある。

これが及ぼす影響がどこまで幅広くあるのか？学校給食をやると小中学校だけではなく当然、幼稚園も無償化ということになる。そうするとさらに保育園は？ということになり、それに伴い保育園のみなさんの副食費（副食費は保護者の方が負担している）も市が当然面倒を見なくてはならなくなる。

そうすると「保育園にやっているご家庭はいいよね。無料でご飯食べられるから」

「うちは家でみているからうちに補助金ちょうだい」という話になってくると思われる。

どこまで影響が出てくるのかということもあるが、先ほども申し上げたとおり、給食費は材料代だけいただいており、あとは市が賄っている状況なので、そこ（材料費）だけは、保護者の方に負担していただけないでしょうかと考えている。

何かこの点に関しまして他の委員のみなさん方からご意見がないでしょうか？

江嶋委員

今、お話を伺って大変だということで、せめて幼稚園だけでも給食の無償化に・・・と思う。他の市がやっているのを見たので。豊後高田市でしたっけ？

下田教育長

今、幼稚園だけなら他にもあります。

江嶋委員

幼稚園だけでも無償化にしていただけたらと思う。

申し上げにくいですが、去年、コロナで小中学校が休みのときに幼稚園だけ開園していた時に給食を提供していただいていた。その内容がとても手が込んでいて、一口サイズのおにぎりだったり、サンドイッチやオムライスとか日頃の給食とは違うものをいただいていたようで、とても手作り感があり先生方にも大変好評だったとうかがっている。

そういう、長期休暇中に幼稚園に給食の提供をしていただけたらうれしいなと思った。どうしても保護者が幼稚園か保育園かを選択しようかなと考えた時に、長期休暇中のお弁当作りの負担を考えた時に負担が大きいので幼稚園の選択を躊躇してしまう理由の一つといえる。

幼稚園の長期休暇中の給食の提供をしていただけると幼稚園を選択する保護者も増え

るのではないかと思うので無謀な意見だと認識しているが考えていただけたらと思う。

川野市長

幼稚園の休暇中の給食・・・いかがでしょうか。

コロナによる閉校時、幼稚園は開けていたので調理員さんに余裕があり、手作り感がある給食ができたのだと思うが、小学校と連携しているのが幼稚園であることと、調理場の年間スケジュールを考えると難しいと思う。

夏休み期間中、給食調理場が何をやっているかという、施設等のオーバーホールしている。普段できない器具の洗浄や施設内の清掃、傷んだ機械の整備等を長期期間中に行っている。場長、今もそうですよね？夏休み期間中は。

赤嶺給食調理場長

今年は特に空調の工事をやります。

川野市長

そういう風に給食をストップしないとできない工事があるものですから、夏休みに全部の作業が集中してしまいます。調理員さんのスキルアップのための、研修会等もこの時期に行っています。

夏休みに幼稚園だけの給食を作るために稼働させてしまうとそのようなことができなくなるので、それでなくても夏休みが短くなっている、ここはご理解いただければと思っている。

下田教育長

渡部委員、保護者の立場から何かありませんか？給食費について。

渡部委員

私もクラブ活動で小学生と接する機会が多いのですが、よく聞くのが、家では食べないけど学校の給食では人参、椎茸、ピーマンとかを食べるといようなこと。

親御さん（お母さん）とかも、給食があるので家では食べてくれないけど学校で食べているからありがたいと聞く。

3人も4人も小学校中学校で行かせている親御さんは、少しは免除がないかなという要望も聞いている。

完全無償化は難しいと思うが1割、2割（減免）とかの検討をしてみたいかでしょうか。

川野市長

場長をしていた頃、学校に行くのは給食を目指していくという子がいて、本当にうれしく、そうやって給食を期待してもらっているということを感じていた。

給食調理場、調理員、先生方も含めて、子供達にしっかり食べて欲しい、健やかな身体を作っていくためにも給食は大事だよということも色々なメニューを考えて、食育というところで地域の食材を使っていくということもやっている、学習の場にもなっている。

そういう位置づけでしっかり食べて欲しいという思いはあって、なおかつ、良いものを提供したいということになると材料も良いものを・・・となると給食費も上がってしま

うことになるが、そこを栄養士が苦勞しながら食材を調整しながら給食費を上げないように努力をしている。

場長、豊後大野市の給食費は県下でどれくらいですか？何番目くらいですか？

赤嶺給食調理場長 小学校が9番目です。

川野市長 県下で9番目。

赤嶺給食調理場長 中学校が18番目です。

川野市長 18番目というが一番安いのですか？

赤嶺給食調理場長 一番安くはないですが、ただ僅差ではあります。

川野市長 では、小学校が真ん中くらいで、中学校がわりと下の方で、給食費、そんなに県下でも高くはなく、頑張っているところです。これは提供の食数も関係するんですよね？

赤嶺給食調理場長 はい、食数も関係します。

川野市長 うちの提供の食数が年間200食くらいとか、わりと高かったんじゃないですかね？

赤嶺給食調理場長 現在、200食です。

川野市長 他のところは、学校行事があると給食を出さないところがあるようですが、うちは年間200提供しており、提供回数も他のところと比べて多く、なおかつ、給食費もそこまで上げていないという状況から、調理場がかなり頑張って給食を作ってくれていると思っている。

給食費を今以上に下げると食材の品質の維持や確保に困ってしまうので、県下の状況からも、今のところはこれでご理解いただけないかなと思っている。

安くて美味しければ一番いいし、一番良いのは無料ですが・・・。

この前の議員の報酬で日当にすると7000万円、経常収支が0.5%影響するという話があったが、この給食費1億ですからね。1%に近いくらいの経常収支比率が上げてしまうことになるので、なかなか「はい、わかりました」とは言いにくいところがある。豊後大野市でこれからまちづくりをやっていくためにもここは保護者のみなさんにご理解をいただきたいと思っている。

今日は地域活性化のためのスポーツ施設、給食費についてご意見をいただきましたが、このテーマでお話がなければ、その他、この機会に気になっている点等があればご質問

いただいて結構ですが。ありませんか？

では、せっかくの機会なので高野館長から資料館オープンに向けてみなさんにコマーシャルしていただきます。

高野資料館長 7月11日（土）にいよいよ新館がオープンします。
内容は豊後大野市の色々なことを網羅するつもりで作りました。
総合展示室と歴史民俗展示室と2箇所あります。
総合展示室ではプロジェクションマッピングで豊後大野市の大地の特色を紹介したり、ジオパーク・エコパークに認定された地域ですので自然科学系も十分入れています。
大野川流域で栄えてきたので、大野川の紹介、それにまつわる産業の一部や発達史などを展示しています。
来場者の方には頭上に豊後大野の素晴らしい仏教文化、自然環境を紹介する大型スクリーンを用意しています。
今のところ、県内各地の関係者が来た時に見せると市でここまでやったのかという大変高い評価をいただいています。
その分、皆様方に十分ご利用していただかないと何のために作ったか分からないということになってしまうので、職員一丸となって頑張りたいと思っています。
歴史民俗資料室では、豊後大野市 考古学の遺物の多い場所だったので、旧石器時代から近現代までずらりと名品を展示しています。
くっついて説明をさせていただくと軽く2時間くらいかかってしまうというボリュームの施設となっています。

川野市長 教育委員さん、見に行かれましたか？

教育委員 はい

川野市長 この施設、豊後大野市が合併して、市内の歴史資料を展示できないと市民のみなさんからかなりご要望いただいていたところですが、それが形となって資料館がオープンできるようになったので、より多くの方に見ていただきたいという思いがある。また、ジオパークの拠点施設であるので、今年の再認定にこの施設を活かしていければと思っている。
教育の分野でも、子供達にぜひ見てもらって豊後大野市の歴史を学んでもらうような教育活動にも使っていただきたいと思っている。
たまに、図書館にはマイクロバスがやってきて子供達がどンドン下りていくのを見かけるので、引き続き資料館の方にも子供達に来ていただいて順番に見ていただけることができればと思っている。

委員のみなさん、図書館や資料館を見て感想がありますか？

江嶋委員

資料館、とても素晴らしく拝見させていただきました。

個人的に言わせていただくと、資料館も素晴らしかったが、説明していただけるスタッフの方々の話がとても面白かった。文化ごとに説明者が変わったが得意な分野をととても楽しそうに説明してくれるのでこちらも聞き入ってしまった。子供達にもその方々が説明していただけないかなと思った。

ただ、循環して見るだけではなく、その時代を勉強する前に、その専門の方の説明を聞いて授業に入るとわかりやすいのではないかと感じた。

川野市長

そうですね。得意な分野、それぞれ学芸員さんにあるでしょうから、何をポイントで行くかというときに事前に学校から今日はこういうところを見に行きたいんだとテーマを教えていただければ説明する方も対応ができるのではないかと思う。ぜひ、皆様方に広く活用していただきたいと思う。

羽田野委員

大分石造文化というものに所属しており、先日、豊後大野市の特に千歳を回ったが、千歳の高添にあれだけの文化遺産があるとは知らなかった。

市のホームページに文化財等が載っているが地図と実際の場所がわからなかった。

千歳の子供達はそういうものを知っているのかなとふと感じ、冊子等があると、もう少し早く見に来ていたかもと感じたので、そういうものを作っていただきたいと思った。市民にも豊後大野市にはこんな大切なものがあって、市の指定になっていたり、県の指定になっているということが分かると良いなとつい先日感じたので一言言わせていただいた。

川野市長

市、県、国の指定を受けているものはそれくらいあるのか？

高野資料館長

市の指定が380、県、国を合わせると505～506件ある。

その中でも、豊後大野の特徴は石造文化財、仏教文化の特に石幢（せきどう）とか宝篋印塔（ほうきょういんとう）とかが突き抜けて多く、さらに大分の歴史博物館には豊後大野の複製品が3つもある。（石幢と宝篋印塔）

県の方がすごいと思って複製するくらいものなので、それくらい仏教文化が盛んなところなのでPRしていきたい。

羽田野委員がおっしゃるとおり、どこに何があるかを自分達が内部資料として持っているだけで皆さんが見ることができる状態にないので、これから検討していきたい。

川野市長

千歳の高添のものは県指定？

高野資料館長

県指定の立派な石幢です。

川野市長 分かり易いように、お示しできるような説明書ができるといいのですが、まずは、今やらないといけない宿題の一番は、文化的景観ですから、まずはそこをやっていただきたい。羽田野委員、もう少しお待ちください。

川野市長 おいおい、子供達のためになる資料を作っていただきたい。
その他はよろしいでしょうか？
では、意見交換はここまでとさせていただきます。

<意見交換終了>

小野総務課長 意見は出尽くしていないと思うが、ここで意見交換を終了させていただく。

(司会)

矢野総務係長 小野総務課長より、閉会のあいさつ

小野総務課長 <閉会のあいさつ> 16：40 終了

(補足)

レイマン・コントロール (市民による意思決定)

住民が専門的な行政官で構成される事務局を指揮監督する。

政治的中立、専門家への一任により生じる意見の偏りを防止するため、大局的・基本的な方針を地域住民の意思により決定し、具体的な事務や運営については専門のもの（行政）に委ねる。

実際に導入されているものとして教育委員会があげられる。

地域住民の意思を教育政策に反映させるために一般住民から選出された素人（行政教育上）により構成される委員会が教育行政を統轄する。

併せて、そこで生じる障害・欠陥をカバーするために教育や教育行政の専門家として教育長が補佐する。